

教養部会教授 安藤 淑江

1. 研究活動

<論文>			
<p>慈光寺本『承久記』における後鳥羽院と北条義時—「国王ノ兵乱」をめぐって—</p>	<p>2014. 3</p>	<p>名古屋芸術大学研究紀要 第 35 号</p>	<p>慈光寺本『承久記』は、後鳥羽院と北条義時の覇権争いを「国王ノ兵乱」と位置づけている。物語は源平の争乱を経た頼朝の権威を国王の権威に準え、その権威を受け継ぐ者として、北条義時を定位するが、その位置づけは揺れている。一方、後鳥羽は帝の権威を失墜させる帝であった。両者の争いに理念はなく、権力争いは所領をめぐる意地の張り合いとして表面化する。物語は、両者とも十分な大義があるとは言えないとする。</p> <p>物語は後鳥羽に「(前世の果報により帝位に就いた) 十善の君」という呼称を多用して権威付けを図っているが、勝利した義時の「自分の果報の方が勝っていた」という発言により相対化される。そして結局は、承久の乱を、二人の王が前世の果報を争った戦として位置づける結果に終わるのである。</p>

2. 教育活動（教育実践上の主な業績）

大学院授業担当 有 無

授業科目 文学	
◆前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>文学の授業において、内容に対する教員のフレッシュな関心も授業の価値の一部だと考え、数年に一度内容を大きく変更している。一昨年度より「古典文学再入門」の副題のもとで、文法のみならず、国語史一般や古典常識を踏まえた上で、テキストを鑑賞している。写本から入り、仮名の歴史、発音の変遷と仮名遣い等、高等学校ではあまり触れることのない国語学的な諸問題を解説して、新たな知見を得ることができるよう工夫した。「古典常識」も暦（太陰暦）や家族制度等、現代生活に関わるものを取り上げ、古典文学読解が過去の断片的な知識の集成にならぬよう工夫した。「文法」は学生にとって苦手な領域であるが、現代でも文語文法が使用されている状況を示したり、「文法」を踏まえることで作品の読みが深まる様相を提示したりして、現代につながる問題として学べるよう工夫した。毎回の「質問・コメント」を記入する用紙を通して、学生の理解度の確認を行って授業に反映、あるいは学生が関心を持った事項に補足を行うようにした。ミニテストを重ねることで、学生の授業への集中を促し、その解説を行うことで、記憶の定着をはかった。</p>	<p>一昨年、授業のテーマを変更し配布資料も大幅な変更を行った。集中力が低く説明箇所がわからなくなりがちな学生が増えたことから、授業資料はPowerPointによるスライドで提示している（コピーは配布する）。今年度は、前年度の気づいた改良点や学生の反応を踏まえて、教材に改訂を行った。</p>
授業科目 文化史	
◆前期 <input type="checkbox"/> 後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
<p>講義の中で、各地の伝統芸能の実例の中から古態を存するもの、あるいは復元の試みの映像をピックアップして見せている。記録しか残らない古代の芸能の歴史を具体的なイメージの中で再現すると共に、学生の音楽的・美術的体験の幅を拡大できるよう工夫している。「クイズ」を用意し、学生の関心をひく工夫もした。毎回「質問・コメント」を記入する用紙を通して、学生の理解度の確認を行って授業に反映、あるいは学生が関心を持った事項に補足を行うようにした。</p>	<p>授業の概要をより確実に理解することを目標に、わかりやすい教材の作製を行っている。教材は毎年更新している。集中力が低く説明箇所がわからなくなりがちな学生への対応を考慮して資料はPowerPointによるスライドとして作成している。今年度も新たな改訂を行った。</p>

授業科目 教養講座 (人文)	
□前期 ◆後期	
工夫の概要	教材・資料等の概要
授業内での体験・作業・練習を積み重ねていく事を通して、「変体仮名」が読めるようになり、日常使う文字である「仮名」の歴史を体験的に修得できるように授業展開している。	授業でも有効に活用でき、欠席者には自習も可能な教材を作製している。教材は毎年更新している。学生には欠席した場合でも必ず自習し提出を求めることで、所期の効果をあげている。本年度も新たな改訂を行った。

3. 学会等および社会における主な活動

中世文学会		会員
日本文学協会		会員
解釈学会		会員
軍記語り物研究会		会員
名古屋大学国語国文学会		運営委員